



## 『蘇民将来 (そみんしょうらい)』

白装束に身を包んで伊勢の町を歩いていた時、民家の玄関に奇妙なものを見つけました。蘇民将来 (そみんしょうらい) 子孫の飾りです。ここ伊勢では一年中飾っていると云います。

日本書紀や古事紀では、さんざんアマテラスを困らせ、とうとう天の岩戸に閉じ籠もらせてしまう高天原の異端児として登場するスサノオ。アマテラス大御神を祀る伊勢神宮のお膝元で、天上を追放されたスサノオが、今も蘇民将来 (そみんしょうらい) の説話としてこの地に生きていることに大きな不思議を感じました。

出雲の斐伊川に天降って、十拳剣 (とつかのつるぎ) でヤマタノオロチを退治し、天叢雲の剣 (あめのむらくものつるぎ=草薙の剣) を入手し、クシナダヒメ (櫛稲田姫) を妻として迎えます。スサノオの行動は、北方から渡来した製鉄民族のにおいが漂います。又、出雲横田 (島根県) では今も古来の方法で砂鉄製鉄が行われています。



昔、大神が南海に旅された時、途中で日が暮れてしまった。その土地に、蘇民将来 (そみんしょうらい) と巨亙将来 (こたんしょうらい) という兄弟がいた。兄の蘇民将来はとても貧乏だったが、弟の巨亙将来の方は大富豪だった。ところが一夜の宿を乞われた大神に、巨亙は惜しんで宿を貸さず、蘇民は粟飯を炊き、心をこめておもてなしをした。そののち年がたって、大神は再び蘇民将来のところへたち寄られた。そして、「私はおまえのために何かをしてやりたいが、子や孫はいるか」と問われた。蘇民が「私と娘と妻だけです」と答えると、大神は「茅の輪を腰に着けておきなさい」と言われた。そこで言葉のままに着けていると、その夜のうちに蘇民の家族以外の者は悉く死に絶えてしまった。その時大神は、「私はスサノオである。後世に病気がはやれば、お前は蘇民将来の子孫と言って茅の輪を腰に着けておきなさい。そうすれば家の者はみな疫病から免れるだろう」と告げられたのであった。

『備後国風土記』に上のような逸話が載っています。

このお話が、夏祭に各地の神社で行われている、茅を結びつけた大きな輪をくぐる「茅の輪祭」の起源。輪くぐりをすると病気をせずに、無事夏を越すことが出来るという信仰なのです。

### 大神 (おおみわ) 神社の茅の輪

「とんでもとらべる」より写真借用

<http://www3.kcn.ne.jp/~mamama/nara/nara-index.htm>



### 稲田姫の由来

出雲が舞台となる神話は須佐之男命と稲田姫の出会いから始まりました。

高天原から追放されたスサノオノミコトは出雲の国肥ノ川上 (斐伊川) 鳥髪 (横田町鳥上) 地に降り、ヤマタノオロチを退治してクシナダヒメ (稲田姫) と結ばれました。

横田町は古事記に書かれている出雲神話の稲田姫の生誕地です。

像の碑文は上のように書かれていました。(出雲横田駅舎の横に有り)



### 参考図書

消された霸王 小椋一葉 河出書房新社 1995年

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>  
<http://www.kanamonoya.co.jp/bike/ryou@memenet.or.jp>

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください!!